

身近な地質スポット

愛知県名古屋市熱田区／「断夫山古墳」

今回は、東海地方最大級の前方後円墳である、断夫山古墳を紹介します。

古墳と地質、一見無関係に思えるかもしれませんが、古墳は大規模な土構造物、地質と切り離しては語れません。

断夫山古墳は、名古屋市中心部の熱田台地南西端部に立地する、全長約 150m の前方後円墳です。

東海地方最大級と称されるこの古墳は、前方部幅約 120m、後円部径約 80m、高さ約 16m、墳丘は 3 段で構築されており、西側面には造出部があります。現在周囲には濠が巡らされていますがこれは後世の造作によるもの。

消失した本来の周濠はさらに広範囲に及ぶものであったことが、明治年間の地積図より明らかとなっています。

正式な発掘はされていませんが、墳丘の形や出土した須恵器、大型円筒埴輪から 5 世紀末～6 世紀初頭の築造と推定されています。

古墳の保存状態は非常に良く、今でも 3 段築成の小段がはっきりと確認でき、前方から後円への移行部は明瞭に高低差があります。

古くから、日本武尊（ヤマトタケルノミコト）妃の宮簀媛命（ミヤズヒメノミコト）の墓として伝えられ、熱田社の神域として保護されてきた経緯があり、伝承に基づき「断夫山」と名付けられたとされています。

学術的には、築造年代にこの地、尾張で活躍していた尾張氏の首長の墓と考えられています。

かつては海岸線が熱田台地の西側近くまで伸びており、古墳に登ると伊勢湾を広く望むことができました。

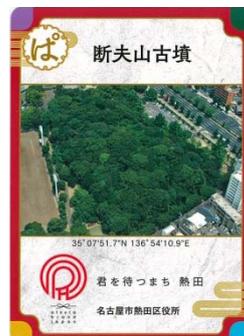
昭和 62 年、国の史跡に指定され、墳丘に立ち入ることは出来ませんが、周囲は熱田神宮公園として整備され、球場、グラウンドが隣接しています。



写真 1 熱田神宮公園全景（愛知県 HP・文化財ナビ愛知より引用）と熱田区で貰えるカード

アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/kyoiku/bunka/bunkazainavi/kinenbutu/siseki/kunisitei/0878.html>

表



裏



断夫山古墳は、平坦な熱田台地上に土を盛り、構築されています。重機のない時代の先人たちは材料となる大量の土砂をいったいどこから運んできたのでしょうか。

疑問に思い墳丘を構成する土を観察してきました。やや遠目に露出したのり面を観察すると砂っぽく見えます（砂質土）。露出した礫や乾燥し崩れた粘土塊は見られませんでした。

周濠を掘った際に出た土砂を材料として、古墳を構築したのでしょうか？

熱田台地を構成する地層は、第四紀更新世に形成された熱田層と称される地層で、熱田層上部の土質は、砂質土を主体とし、凝灰質分を混在しており、所々に粘性土を挟みます。

古墳を構成する土砂の土質と、材料と推測される地層の土質がよく似ています。自分なりに当たっている気がしてきました。地形や地質を知ると、より一層考えに奥行きが出たりするかもしれません。

古墳の軸は、西に 30 度ほど傾いています。これにも何か意味があるのでしょうか。興味が益々湧いてきました。

余談ですが、

この地質スポットの近くにはこんなお店がありました。

熱田鶏白湯「鶏神」



熱田鶏白湯 鶏神



場 所：愛知県名古屋市熱田区六野 1-2-11
イオンモール熱田 4F
営業時間：11:00～14:00、18:30～23:30 (月～金)
11:00～15:00、17:00～23:30 (土日祝)
定休日：なし

イオンモール熱田内のお店。
コラーゲンたっぷりの濃厚鶏ガラスープ。
鶏ダシが麺とシンプルな具材にとてもよく合うラーメンです。
麺は上質な小麦を使った、細めのストレート麺。
鶏肉のチャーシューと味玉、粗挽きコショウがアクセントによく効いています。

私はシンプルな一品を注文。
こんどはほかのラーメンも味わってみたいになりました。
コショウは、粉末ではなく粗挽き。
ランチタイムは行列ができるのか、店外には椅子がいっぱい並べられていました。

